

---

# 中国語を母語とする日本語学習者の日本語テキストの読み における視点の統一度の影響

---

魏志珍（名古屋大学大学院） 玉岡賀津雄（名古屋大学大学院）

**要 旨** 視点の統一度が日本語学習者の日本語テキストの読みにどのように影響するかについて、統語構造の複雑さを考慮して検証した。読み時間をオンラインで測定する自己制御読み実験と読後に内容理解を測定する読解テストを用いて、読みにおける処理速度と理解度から視点の統一度の違いを検討した。実験には、視点の統一度が高低のペアのテキストを2セット用意して（合計4テキスト）、77名の中国語を母語とする日本語学習者に対し、自己制御読みによるオンライン実験を行った。まず、視点の統一度の高低のテキストの理解度に違いはなかった。その上で、視点の統一度の違いを処理時間で検討した結果、視点の統一度の高いテキストの方が低いテキストの読みよりも処理時間が短く、読みにかかる負荷が相対的に大きいことが分かった。しかし、個々の文を検討すると、視点の統一度と文構造の複雑さによる両方の影響を受けていることが分かった。

**キーワード** 談話の視点、視点の統一、テキスト処理、自己制御読み、文構造の複雑さ

## 1. 研究の目的

視点とは、ある事象に対して話者が発話を行う際の空間的・時間的・心理的な位置を意味し（澤田 1993）、何らかの形で言語化されるものである<sup>1</sup>。話し手や書き手のそれぞれの視点により、同じ出来事であっても、「太郎が花子を殴った／花子が太郎に殴られた」のように異なる表現で描写することがある。ただし、基本的に単一の文は一つの視点しか持ちえず（久野 1978）、さらに複数の文で構成されたテキスト内では大きな段落の切れ目がない限り、視点の一貫性がテキスト構成上の重要な原則として保たなければならない（池上 1983, 森山 2007）。こうした視点についての基本的な文法制約および談話上の原則は、言語学の立場から視点を考察した理論的研究によってほぼ明確にされている。

実際、ある事態について描写する際、日本語母語話者は前述した視点の一貫性の原則の通りに、視点を終始同一人物に固定して描写する傾向があることが実証されている（田代 1995, 渡邊 1996, 林 2004, 坂本 2005 など）。しかし、同じような傾向が中国語を母語とする日本語学習者においては見られないことも報告されている。日本語学習者には、視点の一貫性を維持せず複数の人物の視点から描写する傾向があるため、彼らの産出した談話

---

<sup>1</sup> 視点はこれまで心理学、文学、言語学などの諸分野において多様な意味で捉えられ、考察が行われている。本研究では言語学の立場から、その概念を捉えることにした。また、視点には話者がどこから見ているかという〈視座〉と、どこを見ているかという〈注視点〉の2要素があることが知られている。本研究では主に〈視座〉に注目して、視点という用語を用いることにした。

や文章は日本語母語話者にとって不自然で分かりにくいものになることが指摘されている。つまり、上記の実証的研究の結果から、視点の統一度は日本語テキストの読み易さと関わっている可能性が示唆されている。この点に焦点を当て、読み (reading) の観点から検証を行った研究は、管見の限り、坂本・康 (2008) と魏・玉岡・大和 (2010) のみである。いずれも日本語母語話者を対象とした研究であるが、前者は読後の結果に注目したもので、被験者に視点の統一度に違いのある2つの文章のうちから読み易いものを選択してもらうオフライン法で調査している。また、後者は読み処理の過程に着目したもので、テキストの読み時間を指標とするオンライン法の自己制御読み実験で調査している。その結果、視点が統一されているテキストは、視点が統一されていないテキストに比べ、より分かり易いと感じられる傾向があり (坂本・康 2008)、さらに実際のテキスト処理において読みに要する時間がより短く、読みにかかる負荷が相対的に小さいこと (魏・玉岡・大和 2010) が報告されている。視点の統一度は、日本語母語話者のテキストの読みに影響することが分かってきた。しかし、これらの研究は日本語母語話者を対象としたものであるため、その成果が日本語学習者にも当てはまるかどうかは明らかではない。

日本語学習者が複数の人物の視点から描写する傾向があるのは、動作主の視点から事態を捉える事実志向の傾向がある<sup>2</sup>からだと言われている (堀江・パルデシ 2009)。こうした志向性を持つ日本語学習者は、テキストを読む際、話の方向を自らの物事の捉え方に基づく展開スタイルで予測しながら読み進めていく可能性があると考えられる。仮にそうであるならば、視点が統一されていないテキストは、日本語学習者にとって必ずしも読み難いものになるとは限らないはずである。また、視点の一貫性を保つ上で重要な役割を果たしている表現形式には、受身表現、授受表現、移動表現などのいわゆる視点表現がある (久野 1978, 森田 2002 など)。しかし、これらの視点表現の種類によっては、その使用がテキスト内の文構造をより複雑にすることもあり、逆に日本語学習者の読み処理の負荷を増大させることも考えられる。例えば、視点表現のうちの受身表現について、受動文は能動文の目的語を主語に格上げし、主語を補語に格下げし、さらに動詞に「(ら)れる」を付けることによって形成されるものであり、統語構造が能動文より複雑になると奥津 (1983, 1992) が述べていることから、能動文と受動文とでは文そのものの統語上の難易度が異なっていると考えられる。実際、日本語母語話者を対象とした Tamaoka, Sakai, Kawahara, Miyaoka, Lim and Koizumi (2005) の研究では、修飾語を持たないシンプルな SOV 語順の能動文の平均処理時間が 1,209 ミリ秒であるのに対し、同様にシンプルな SOV 語順の受動文の平均処理時間は 1,521 ミリ秒で、その差は 312 ミリ秒もあることが報告されている。両者が完全に同じ文ではないので厳密には直接比較できないものの、受動文の方が能動文よりも処理負荷が大きい傾向があることがうかがえる。特に、日本語学習者を対象とする場合には、視点の統一度による影響を受けると同時に、統語構造の複雑さによる影響も強く受けることが予想される。そのため、日本語テキストの読みにおける視点の統一度の影響を検証する際には、視点を統一するために統語構造が複雑になってしまったことによる影響についても同時に考慮する必要がある。

そこで、本研究では、視点の統一度が日本語学習者の日本語テキストの読みにどのように影響するかを、統語構造の複雑さも考慮して検証するために、読み処理の過程を即時に

<sup>2</sup> 中国語では視点が自由に移動でき、なおかつ動作主体の視点から発話する傾向がある (彭 2008 参照)。

反映できる「固定窓式の自己制御読み実験」と読後の内容理解を測定する読解テストを用いて、視点の統一度の異なるテキストを読む場合の理解度と処理の迅速さを比較検討する。

## 2. 研究方法

### 2.1 被験者

被験者は、台湾の大学で日本語を専攻する学生 77 名（男性 8 名、女性 69 名）である。母語は中国語であり、平均年齢は 21 歳 6 か月で、平均日本語学習歴は 3 年 4 か月である。被験者は本研究の実験に応じて、日本語能力が同等である A グループ 39 名（以下 A と記述）と B グループ 38 名（以下 B と記述）の 2 グループに分けることにした。

日本語能力の判定に関して、本研究では、統一した指標により日本語学習者の日本語能力を弁別する目的で、被験者全員に対して、宮岡・玉岡・酒井（2011）の日本語の語彙テスト（48 問）と文法テスト（36 問）を行った。いずれのテストも四者択一の選択問題であり、配点は 1 問 1 点である。採点の結果、満点が 48 点の語彙テストの平均は、A が 31.56 点で、B が 29.61 点であり、標準偏差は A が 5.98 点であり、B が 4.60 点であった。満点が 36 点の文法テストの平均は、A が 29.62 点で、B が 28.32 点であり、標準偏差は A が 2.93 点で、B が 3.52 点であった。A と B の 2 つのグループの語彙と文法のテストの得点を独立したサンプルの  $t$  検定で比較したところ、語彙テスト [ $t(75)=1.764, p=0.082, ns$ ] と文法テスト [ $t(75)=1.609, p=0.112, ns$ ] の双方で、有意な差はなかった。この結果から、両グループの日本語の語彙能力と文法能力は同等であることが確認された。

### 2.2 実験用のテキスト

実験では、日本語母語話者を対象とした魏・玉岡・大和（2010）に倣い、2 種類の異なるテーマの 500 字程度のテキスト『自転車』と『犬助け』を用意した。それぞれのテキストの内容は、被験者にとって理解しやすい日常生活に関するストーリーであるため、内容の複雑さによる理解の困難さを排除できると考える。また、読みの際に未知語に遭遇する可能性を避けるため、テキストで使われる語彙は、日本語能力試験出題基準（国際交流基金 2007）より、難易度<sup>3</sup>が 2 級以下の語（約 90%）を主に使用した。

次に、『自転車』と『犬助け』の視点の統一度について、本研究ではそれぞれのテキストの視点の統一度に高低の差を設けるため、視点表現をテキスト全体の視点をコントロールする手段として用いた。視点表現は、視点の一貫性の維持に深く関わっていることが多くの研究（久野 1978, 森田 2002, 中浜・栗原 2006 など）で確認されており、その中の代表的なものとして受身表現、授受表現、移動表現が挙げられる。そこで、本研究では、受身表現の「(ら)れる」、授受表現<sup>4</sup>の「(て)くれる／(て)あげる」、移動表現の「(て)いく／(て)くる」の 3 種類を使って、各テキストの内容を変えない範囲で、テキスト全体の視点の統一度が高いものと低いものを作成した（2 対ずつの合計 4 テキスト）。具体的な視点の転換の方法については、例えば、視点の統一度の高いテキストにおいて「太郎は

<sup>3</sup> 『自転車』と『犬助け』で使用した語彙はそれぞれ 123 語と 137 語である。語彙の難易度に関して、『自転車』においては、1 級は 4 語（3.3%）、2 級は 20 語（16.3%）、3 級は 43 語（35%）、4 級は 50 語（40.7%）、級外は 6 語（4.9%）であった。一方、『犬助け』においては、1 級は 2 語（1.5%）、2 級は 31 語（22.6%）、3 級は 39 語（28.5%）、4 級は 57 語（41.6%）、級外は 8 語（5.8%）であった。

<sup>4</sup> 本研究は、授受表現のうちの「てくれる／てあげる」のみを使用した。

花子に花をあげた」の「あげた」の部分で、視点の統一度の低いテキストにおいては「くれた」に変更することにより、描写の視点を太郎から花子に転換することになる。ただし、視点の転換は統一度の低いテキストの場合のみで起こる。つまり、本研究では3種類の視点表現を他の表現と組み合わせて用い、視点の統一度の高いテキストにおいては描写の視点を主人公や主人公が共感する者に一貫させることにしたが、それに対応する視点の統一度の低いテキストにおいては、描写の視点を主人公、主人公が共感しない者、主人公でない動作主の間で移動させることによって、テキスト全体の視点の一貫性を崩すことにした。実験はこれらの4テキストから、視点の統一度が高いテキストを1篇、低いテキストを1篇選び、合計2篇からなる実験材料を2セット用意して、被験者に割り当てた。

### 2.3 実験の装置と手続き

実験は、14.1インチの画面の中央に区切られたテキストの一部を呈示して、スペースキーを押すたびに次のテキストの一部が呈示されるように設定した。被験者は、一つの呈示部分を読み終わるごとにキーを押して次の呈示部分を映し出して読み進め、この作業をテキストの終わりまで繰り返す。テキストの一部が呈示されてからキーが押されるまでの時間を呈示部分の読み時間と想定し、ミリ秒(ms)単位で記録した。被験者には内容を理解しながらできるだけ速く読むように指示し、事前に本実験に慣れてもらうために練習課題を行った。また、それぞれのテキストを読み終えた後に、内容に関する四択一の問題を各テキストについて3問課した(3点満点)。

## 3. 結果と考察

### 3.1 テキストの内容理解の正確さに対する視点の統一度の影響

表1に示したのは、テキストの内容理解を問う問題における、視点の統一度の高いテキストと低いテキストのそれぞれの得点の平均と標準偏差である。また、『自転車』と『犬助け』のテキストの内容理解の得点について、視点の統一度が高いものと低いものの差を独立したサンプルの  $t$  検定で検討した結果、いずれもテキストの内容理解に視点の統一度の高低による違いはないことが分かった。すなわち、日本語学習者は視点の統一度の高低によらず、いずれのテキストの内容でもほぼ同じ程度に理解していることが確認された。

表1 テキストの内容理解問題の得点(3点満点)

| 視点の統一度 | 『自転車』                      |      | 『犬助け』                      |      |
|--------|----------------------------|------|----------------------------|------|
|        | 平均                         | 標準偏差 | 平均                         | 標準偏差 |
| 高い     | 2.77 <sup>A</sup>          | 0.54 | 2.46 <sup>B</sup>          | 0.72 |
| 低い     | 2.55 <sup>B</sup>          | 0.72 | 2.37 <sup>A</sup>          | 0.75 |
| $t$ 検定 | $t(75)=1.495, p=0.139, ns$ |      | $t(75)=0.556, p=0.580, ns$ |      |

注：平均の欄に示された数字の右横のAとBは、それぞれのテキストを割り当てたグループを示す。

### 3.2 『自転車』テキストの読み時間における視点の統一度の影響

続いて、テキストの内容を理解するためにかかった読み時間について、視点の統一度による影響があるかどうかを検討する。まず『自転車』について、32対から成る視点の統一度の高と低の文の全体の平均読み時間を、対応のあるサンプルの  $t$  検定で検討した。その結果、視点の統一度の低いテキストの全体の平均読み時間(M=3,123ms, SD=1,459ms)は、視点の統一度の高いテキスト(M=2,780ms, SD=1,186ms)よりも有意に長く

[ $t(31)=-3.945, p<.001$ ], 視点の統一度による影響が見られた。さらに視点の統一度の高いテキストと低いテキストのそれぞれ対応する文の読み時間の違いを, A, B 両グループの独立したサンプルの  $t$  検定で検証した。その結果, 表 2 に示した「P 番号 (例えば P12 など)」の示す通りに, 視点の転換がある 6 箇所 (受身表現の P12 と P25, 授受表現の P14 と P30, 移動表現の P3 と P8) の内の 3 箇所 (受身表現は P12 と P25 の 2 箇所, 授受表現は P14 の 1 箇所) および視点の転換の後に来る 3 箇所 (P4, P17, P26) で, 視点の統一度の低いテキストの読み時間は, 視点の統一度の高いテキストよりも有意に長くなって

表 2 『自転車』のテキストの読み時間における視点の統一度の高・低の違いに関する  $t$  検定の結果

| #   | 視点の統一度の高い条件                | M    | SD   | 視点の統一度の低い条件                 | M    | SD   | $t$ 値 | $p$ |
|-----|----------------------------|------|------|-----------------------------|------|------|-------|-----|
| P1  | ナオキは誕生日に自転車を買ってもらいました。     | 4184 | 1902 | ナオキは誕生日に自転車を買ってもらいました。      | 4638 | 1144 | -1.25 |     |
| P2  | そこで,                       | 866  | 325  | そこで,                        | 1074 | 603  | -1.89 |     |
| P3  | ツバサが自慢しようとしてツバサの家にきました。    | 5788 | 2191 | ツバサが自慢しようとしてツバサの家にきました。     | 6461 | 2903 | -1.15 |     |
| P4  | ツバサは毎朝いつも庭の掃除をしているので,      | 2697 | 945  | ツバサは毎朝いつも庭の掃除をしているので,       | 3526 | 1464 | -2.96 | **  |
| P5  | ナオキが訪ねて行った時も掃除をしていました。     | 3321 | 1338 | ナオキが訪ねて行った時も掃除をしていました。      | 3623 | 1425 | -0.96 |     |
| P6  | そこでナオキはツバサに声をかけると,         | 3518 | 1593 | そこでナオキはツバサに声をかけると,          | 3867 | 1619 | -0.95 |     |
| P7  | ツバサは掃除を中断し,                | 1539 | 592  | ツバサは掃除を中断し,                 | 1791 | 1062 | -1.29 |     |
| P8  | ナオキに近づいてきました。              | 2327 | 1212 | ナオキに近づいて行きました。              | 2381 | 1336 | -0.19 |     |
| P9  | ツバサはすぐにナオキの自転車が新型モデルだと気づき, | 4413 | 1753 | ツバサはすぐにナオキの自転車が新型モデルだと気づき,  | 4990 | 2163 | -1.29 |     |
| P10 | 思わず自転車のことを褒めました。           | 2577 | 1158 | 思わず自転車のことを褒めました。            | 2797 | 1156 | -0.84 |     |
| P11 | その後,                       | 643  | 204  | その後,                        | 771  | 447  | -1.63 |     |
| P12 | ナオキはナオキに自転車を貸してくれるよう頼みました。 | 4199 | 1797 | ナオキはツバサに自転車を貸してくれるよう頼まれました。 | 6330 | 4671 | -2.65 | *   |
| P13 | ナオキは優しい子なので,               | 2262 | 908  | ナオキは優しい子なので,                | 2427 | 1025 | -0.75 |     |
| P14 | ツバサに貸してあげました。              | 1699 | 873  | ツバサに貸してくれました。               | 2290 | 1337 | -2.30 | *   |
| P15 | するとツバサは調子にのって,             | 3485 | 1600 | するとツバサは調子にのって,              | 3551 | 1401 | -0.19 |     |
| P16 | 坂を猛烈なスピードで下って行きました。        | 3170 | 1578 | 坂を猛烈なスピードで下って行きました。         | 3062 | 1256 | 0.33  |     |
| P17 | もはやハンドル操作ができなくなり,          | 3957 | 1533 | もはやハンドル操作ができなくなり,           | 4932 | 2334 | -2.17 | *   |
| P18 | 坂の下にあった木に正面から衝突してしまいました。   | 2942 | 1167 | 坂の下にあった木に正面から衝突してしまいました。    | 3273 | 1793 | -0.96 |     |
| P19 | ナオキはその瞬間目を手で覆い隠していました。     | 4630 | 1963 | ナオキはその瞬間目を手で覆い隠していました。      | 5044 | 3445 | -0.65 |     |
| P20 | 手の覆いと,                     | 1797 | 797  | 手の覆いと,                      | 1581 | 706  | 1.26  |     |
| P21 | めちやくちやに擦れた自転車が目に入ってきました。   | 3116 | 1213 | めちやくちやに擦れた自転車が目に入ってきました。    | 3735 | 1553 | -1.95 |     |
| P22 | いくらナオキが優しいからと言っても,         | 3342 | 1386 | いくらナオキが優しいからと言っても,          | 3352 | 1046 | 0.32  |     |
| P23 | さすがにこれは許せません。              | 2307 | 960  | さすがにこれは許せません。               | 2564 | 971  | -1.17 |     |
| P24 | せつかくの新しい自転車が擦れてしまい,        | 2152 | 860  | せつかくの新しい自転車が擦れてしまい,         | 2332 | 938  | -0.88 |     |
| P25 | 激怒したナオキはツバサをひどく責めました。      | 3403 | 1455 | ツバサは激怒したナオキにひどく責められました。     | 4802 | 2542 | -2.97 | **  |
| P26 | しかし,                       | 666  | 146  | しかし,                        | 851  | 385  | -2.79 | **  |
| P27 | ナオキがよく見ると,                 | 1785 | 719  | ナオキがよく見ると,                  | 1889 | 605  | -0.69 |     |
| P28 | ツバサは相当ひどい怪我をしていました。        | 2722 | 1148 | ツバサは相当ひどい怪我をしていました。         | 3231 | 1599 | -1.61 |     |
| P29 | ナオキは優しいので,                 | 1460 | 540  | ナオキは優しいので,                  | 1531 | 726  | -0.49 |     |
| P30 | ツバサの手当てをしてあげました。           | 2637 | 979  | ツバサの手当てをしてあげました。            | 2499 | 1317 | 0.52  |     |
| P31 | ツバサは何度も謝ってきたので,            | 2213 | 965  | ツバサは何度も謝ってきたので,             | 2125 | 1048 | 0.39  |     |
| P32 | ナオキは自転車を壊したことを許してあげました。    | 3158 | 1246 | ナオキは自転車を壊したことを許してあげました。     | 2726 | 1258 | 1.51  |     |

注 1: 本研究では, 独立サンプルの  $t$  検定を使用した。  $n=77$  (視点の統一度の高い条件は 39 名, 視点の統一度の低い条件は 38 名)。 \*  $p<0.05$ , \*\*  $p<0.01$

注 2: 灰色のセルは, 視点の統一度をコントロールした箇所を示す。下線部分が視点を変え直した部分である。ただし, 視点の転換は統一度の低い条件のみで起こる。

いた。この結果から、日本語学習者がこれらの箇所を読む際、視点の統一度の低いテキストでかかった処理負荷の方が、視点の統一度の高いテキストよりも大きいことが示された。

その一方で、視点の転換がある6箇所のうち、授受表現の P30 の1箇所と移動表現の P3 と P8 の2箇所においては、テキスト間の読み時間に有意差が見られなかった。移動表現の「(て) いく」と「(て) くる」は、視点に応じて使い分けるものであり、両者の視点の位置<sup>5</sup>は対立しているものの、いずれも動作主（移動主体）が主語に立ち、動作主がどこからどこまで移動したかという移動のルートが理解されやすい表現である。これらの箇所において有意な違いが見られなかったことは、日本語学習者がこれらの箇所を読む際に、ほぼ同じ処理速度で主要情報を読み取っていたことを示していると言えよう。

一方、授受表現について、P14 と P30 では、いずれも視点の統一度の高いテキストで「一てあげる」、視点の統一度が低いテキストで「一てくれる」が用いられているが、P14 でのみ有意差が見られた。「一てあげる」と「一てくれる」は、前述した移動表現と類似した特徴を持ち、両者の視点の位置<sup>6</sup>は対立しているが、動作主が主語に立つという点で共通している。中国語では、日本語の「一てあげる／一てくれる」のような区別がなく、全て「給/gei3/」の1語が使われ、さらに恩恵を伴う行為という意味が極めて希薄である。そのため、本研究の調査対象者である中国語を母語とする日本語学習者は、それらを同一視して処理した可能性があると考えられる。なお、有意差が見られた『自転車』の P14 は、P12 の受身文の後に続いて現れる複文の主文であり、P12 で視点の転換された影響を受けて、読み時間の遅延が起こったのであろう。すなわち、前の箇所において、視点の転換によってかかった読み処理の認知的負荷がまだ解消されていない状態で、次の視点の転換される箇所の処理に遭遇したため、読み処理の時間が長くなったと思われる。

### 3.3 『犬助け』テキストの読み時間における視点の統一度の影響

『犬助け』についても、『自転車』と同様に、文全体の平均読み時間を対応のあるサンプルの  $t$  検定で検討した。その結果、視点の統一度の低いテキスト ( $M=3,081\text{ms}$ ,  $SD=2,268\text{ms}$ ) と高いテキスト ( $M=2,890\text{ms}$ ,  $SD=1,940\text{ms}$ ) の全体の平均読み時間の差は有意ではなかった [ $t(30)=-1.742$ ,  $p=0.092$ ,  $ns$ ]。次に、視点の統一度の高いテキストと低いテキストの対応する文について、A、B 両グループの独立したサンプルの  $t$  検定で読み時間の違いを検証した。その結果、表3に示すように、視点の転換がある8箇所（授受表現は P6, P7, P10, P11, P23, P27, P30 の7箇所、移動表現は P31 の1箇所）の内の1箇所（授受表現の P10）および視点の転換の後に来る P13 と P28 の2箇所において、視点の統一度が低いテキストの方が高いテキストよりも読み時間が有意に長くなっていた。この結果から、『犬助け』においても、『自転車』と同様に、視点の転換された部分と転換された後の部分では、読み時間の遅延が観察され、読み処理に負荷がかかっていることが分かった。

しかし、その一方で、視点の統一度の高いテキストの方が低いテキストより読み時間が有意に長かった箇所もある。授受表現の P23 と P27 においては、いずれも視点の統一度の高いテキストで用いた受身文の方が視点の統一度の低いテキストで用いた能動文より読み時間が有意に長かった。P23 は「犬に腕を噛み付かれた」という間接受身文の中の持ち

<sup>5</sup> 「くる」は話し手が視点を置いている場所に動作主が近づく移動であり、「いく」は話し手が視点を置いている場所から動作主が遠ざかる移動である（久野 1978）。

<sup>6</sup> 「一てあげる」は話し手の視点が動作主にあり、「一てくれる」は話し手の視点が非動作主にある。

表3 『犬助け』のテキストの読み時間の統一度の高・低の差に関する t 検定の結果

| #   | 視点の統一度の高い条件                     | M    | SD   | 視点の統一度の低い条件                     | M    | SD   | t 値   | p   |
|-----|---------------------------------|------|------|---------------------------------|------|------|-------|-----|
| P1  | ジョンが部屋でのんびりしようとしていたところ、         | 5384 | 2056 | ジョンが部屋でのんびりしようとしていたところ、         | 5591 | 2064 | -0.44 |     |
| P2  | 外から妙な音が聞こえてきた。                  | 2100 | 984  | 外から妙な音が聞こえてきた。                  | 2006 | 739  | 0.48  |     |
| P3  | 窓からその音を確認するため、                  | 1861 | 825  | 窓からその音を確認するため、                  | 2025 | 851  | -0.86 |     |
| P4  | 外を覗いてみた。                        | 1255 | 434  | 外を覗いてみた。                        | 1280 | 568  | -0.22 |     |
| P5  | すると、                            | 704  | 247  | すると、                            | 765  | 336  | -0.92 |     |
| P6  | 外では犬が男に追いかけていた。                 | 3494 | 1561 | 外では男が犬を追いかけていた。                 | 3537 | 2750 | -0.09 |     |
| P7  | その犬の尻尾には重そうなハンマーがついていた。         | 6519 | 2684 | その犬の尻尾には重そうなハンマーがついていた。         | 6644 | 1874 | -0.24 |     |
| P8  | その姿を見たジョンはすぐさま犬を助けようと外に出た。      | 4821 | 1701 | その姿を見たジョンはすぐさま犬を助けようと外に出た。      | 5228 | 2130 | -0.93 |     |
| P9  | そして、                            | 765  | 336  | そして、                            | 738  | 338  | 0.35  |     |
| P10 | 家を出て行ったジョンは犬を追いかけていた男を殴った。      | 5962 | 2915 | 犬を追いかけていた男は家から出てきたジョンに殴られた。     | 8266 | 3577 | -3.10 | **  |
| P11 | ジョンが男を殴った姿は通りかかった警官に見られていた。     | 4325 | 1667 | 通りかかった警官はジョンが男を殴った姿を見ていた。       | 5036 | 2091 | -1.65 |     |
| P12 | そして、                            | 637  | 247  | そして、                            | 691  | 322  | -0.83 |     |
| P13 | ジョンはその警官に注意をされた。                | 2145 | 1048 | ジョンはその警官に注意をされた。                | 2865 | 1143 | -2.88 | **  |
| P14 | しかし、                            | 640  | 279  | しかし、                            | 649  | 301  | -0.14 |     |
| P15 | ジョンには何故自分が注意を受けるのかが分からなかった。     | 4735 | 2100 | ジョンには何故自分が注意を受けるのかが分からなかった。     | 5690 | 2637 | -1.76 |     |
| P16 | そして、                            | 678  | 304  | そして、                            | 700  | 455  | -0.25 |     |
| P17 | ジョンはややせない気持ちで家へと戻って行った。         | 4671 | 1485 | ジョンはややせない気持ちで家へと戻って行った。         | 5086 | 1747 | -1.12 |     |
| P18 | その途中、                           | 788  | 318  | その途中、                           | 807  | 410  | -0.24 |     |
| P19 | 先ほどの犬と偶然出くわした。                  | 2782 | 1537 | 先ほどの犬と偶然出くわした。                  | 2705 | 1618 | 0.22  |     |
| P20 | 犬のしっぽにはまだ重いハンマーがついていたため、        | 4404 | 1717 | 犬のしっぽにはまだ重いハンマーがついていたため、        | 4289 | 1897 | 0.28  |     |
| P21 | ジョンは外してあげようと試みた。                | 3499 | 1796 | ジョンは外してあげようと試みた。                | 3654 | 1748 | -0.38 |     |
| P22 | すると、                            | 719  | 461  | すると、                            | 713  | 378  | 0.06  |     |
| P23 | ジョンは急に犬に腕を噛み付かれた。               | 3724 | 1548 | 犬は急にジョンの腕に噛み付いた。                | 2476 | 940  | 4.26  | *** |
| P24 | しかし、                            | 570  | 148  | しかし、                            | 639  | 226  | -1.61 |     |
| P25 | それでもジョンは諦めず重いハンマーを外そうと試みた。      | 5722 | 2932 | それでもジョンは諦めず重いハンマーを外そうと試みた。      | 5539 | 2322 | 0.30  |     |
| P26 | そこに偶然先ほどの警官が現れ、                 | 2324 | 794  | そこに偶然先程の警官が現れ、                  | 2346 | 984  | -0.11 |     |
| P27 | ジョンの姿はその警官に見られていた。              | 2409 | 905  | その警官はジョンの姿を見ていた。                | 1674 | 711  | 3.96  | *** |
| P28 | ジョンはハンマーを犬のしっぽにつけていると警官に勘違いされた。 | 6043 | 3538 | ジョンはハンマーを犬のしっぽにつけていると警官に勘違いされた。 | 7589 | 3113 | -2.03 | *   |
| P29 | そして、                            | 752  | 353  | そして、                            | 654  | 176  | 1.53  |     |
| P30 | ジョンは再び警官に注意をされた。                | 1887 | 736  | 警官は再びジョンに注意をした。                 | 2012 | 804  | -0.71 |     |
| P31 | ジョンはまたやせない気持ちで家へと戻って行った。        | 3276 | 1481 | ジョンはまたやせない気持ちで家へと戻ってきた。         | 3644 | 1424 | -1.11 |     |

注1: 本研究では、独立サンプルの t 検定を使用した。n=77 (視点の統一度の高い条件は38名、視点の統一度の低い条件は39名)。\* p&lt;0.05, \*\* p&lt;0.01, \*\*\* p&lt;0.001

注2: 灰色のセルは、視点の統一度をコントロールした箇所を示す。下線部分が視点を変えるために書き直した部分である。ただし、視点の転換は統一度の低い条件のみで起こる。

主受身文であり、P27はP26の「そこに偶然先ほどの警官が現れ」という中止法の表現に続く「ジョンの姿はその警官に見られていた」という直接受身文である。動作主が主語に立つ能動文は、被動作主が主語に立つ受身文に対し無標であるため（奥津 1983, 1992；森山 2007）、テキスト処理において、有標な受身文を処理する際にかかる認知負荷は、相対的に大きいと考えられる。このことは、前述の Tamaoka, et al. (2005) の能動文と受動文の文処理時間の差からも示唆される。そのため、P23とP27で観察された有意な結果は、視点の統一度に関係なく、能動態か受動態かという統語構造の違いが読み時間に現れている現象であると思われる。また、P23は事態変化が起こることを表す「すると」に続くため、変化を起した動作主が主語に立つ能動文の方が分かりやすいことも考えられる。

一方、同じ『犬助け』のテキストのP6, P7, P11, P30の4箇所においても、P23, P27と同様に、視点の統一度が高いテキストの方に受身文が使われているが、これらの箇所における読み時間は視点の統一度が低いテキストで使用された能動文より、若干短くなっていることが観察された。ただし、これらの読み時間の差はいずれも有意ではなかった。これは、視点の統一度の高低による影響が、受動態か能動態かという統語構造の違いによる影響に比べ、相対的に大きかったことが読み時間に反映した結果であると考えられる。

田中の一連の研究（1996, 1997, 1999 など）によって、持ち主受身文の構文が直接受身文よりも複雑で習得されにくい項目であることが確認されている。そのため、P23の持ち主受身文を処理する際にかかる認知負荷は直接受身文より高いと考えられる。また、P27については、前述した物事の捉え方における事実志向の傾向を考慮すれば、日本語学習者はP26において「(前略) 警官が現れ」という文が来ていることから、次のP27においてはその警官の行動について描写されることを想定して読み進めたであろう。しかし、視点の統一度が高いテキストのP27においては、直接受身文が使われていて、警官の視点からの描写ではないため、日本語学習者にとっては予想が外れることになったと考えられる。この影響を受けたことと受身文であったことがP27の読み時間に影響したと考えられる。

#### 4. 結論

本研究では、読み処理の過程に着目して、比較対象とした視点の統一度の高・低テキストの内容理解が同程度であるという前提の下に、視点の一貫性の欠如が中国語を母語とする日本語学習者のテキストの読みにどう影響するかについて、視点の統一によって生まれる統語構造の複雑さも考慮しながら、自己制御読みを使った読み時間の指標で検討した。

内容の理解度に関して、本研究ではそれぞれのテキストの読後に実施した読解テストの結果から、視点の統一度の違いによる内容理解の差がないことを確認した。この結果を踏まえて、本研究では本実験の主要な指標である、読み時間で視点の統一度の高低の影響を検討したところ、全体の平均読み時間に関しては、『自転車』についてのみ、視点の統一度の高いテキストの方が、視点の統一度の低いテキストより迅速に処理されたことが分かった。すなわち、視点の統一度の影響が見られた。しかし、『犬助け』については、全体の平均読み時間に違いはなかった。本実験に用いた2対のテキスト『自転車』と『犬助け』は、それぞれのペア内において、視点の統一度（高／低）とその差を設けるために書き換えた箇所の表現の違いを除き、全ての条件が同じになるように統制した。しかし、『自転車』と『犬助け』のそれぞれの全体の平均読み時間には、前述のような異なる結果が見られた。その原因を探るため、さらにそれぞれのテキストにおいて、視点を転換するために視点表

現を用いた箇所のごとの読み時間を比較した。

授受表現と移動表現では、視点の統一度の高低テキストに使った一対の文の読み時間に、違いはほとんど見られなかった（『自転車』の授受表現の P14 のみはその例外である）。本研究で用いた授受表現と移動表現は、いずれも視点の位置が対立するペアであるが、全て動作主が主語に立つ文構造となっている。そのため、これらの箇所で視点の転換の影響が認められなかった理由として、日本語学習者の物事の捉え方が事実志向型であることと関連していると考えられる。一方、受身表現に関しては、『犬助け』において、視点の統一度の高いテキストで使用された受身文の方が、視点の統一度の低いテキストで使用された能動文より、読み時間が有意に長くなった。これは視点を統一するために使った受身文の持つ統語構造の複雑さが、日本語学習者の文処理の負荷を高めたと考えられる。すなわち、視点の統一度による影響よりも、むしろ能動文と受身文における統語構造の複雑さの違いによる影響の方が大きいということである。『犬助け』の全体の平均読み時間に有意差が見られなかったのは、こうした統語構造の影響がかかっていることに起因すると考えられる。

以上のように、中国語を母語とする日本語学習者がテキストを読む際には、視点の統一度の高低による影響を受けるものの、受身文のように能動文と比べて文構造が複雑になる場合には、視点の統一度の影響に加えて、文構造の複雑さの影響を強く受けることが示唆された。本研究の結果を踏まえて、今後は本実験で扱った3種類の視点表現の他に、使役表現や使役受身表現などの視点に関連する表現形式も取り入れて、より考察の幅を広げたい。また、同じ条件下で集めた日本語母語話者のデータとの比較検討も試みたい。さらに、学習者の日本語の習熟度を新たな変数として考慮に入れて、視点の統一度が日本語テキストの読み処理に与える影響の解明に向けて、一層研究を重ねていきたい。

謝辞：本調査を実施するにあたり、調査実施校である台湾の輔仁大学の黄翠娥先生、黄瓊慧先生、頼振南先生、楊錦昌先生をはじめとする先生方に大変お世話になり、そして学生の皆様に多大なるご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

- 池上嘉彦（1983）「テキストとテキストの構造」国立国語研究所（編）『談話の研究と教育 I』, pp.7-41, 大蔵省印刷局.
- 奥津敬一郎（1983）「何故受身か？—<視点>からのケース・スタディ」『国語学』132, pp.65-80.
- 奥津敬一郎（1992）「日本語の受身文と視点」『日本語学』11（8）, pp.4-11.
- 魏志珍・玉岡賀津雄・大和祐子（2010）「日本語のテキスト処理における視点の統一性の影響」『日本語学会第140回大会予稿集』, pp.110-115.
- 久野暉（1978）『談話の文法』大修館書店.
- 国際交流基金（2007）『日本語能力試験出題基準』凡人社.
- 坂本勝信（2005）「中国語を母語とする日本語学習者の『視点』の問題を探る」『常葉学園大学研究紀要』21, pp.1-10.
- 坂本勝信・康鳳麗（2008）「日本語母語話者の視点の実態について—[視座の統一度と文章のわかりやすさの関係] 調査と共に」『常葉学園大学紀要』24, pp.205-217.
- 澤田治美（1993）『視点と主観性—日英語助動詞の分析』ひつじ書房.
- 田代ひとみ（1995）「中上級日本語学習者の文章表現の問題点—不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる」

- 『日本語教育』85, pp.25-37.
- 田中真理 (1996) 「視点・ヴォイスの習得—文生成テストにおける横断的及び縦断的研究」『日本語教育』88, pp.104-115.
- 田中真理 (1997) 「視点・ヴォイス・複文の習得要因」『日本語教育』92, pp.107-118.
- 田中真理 (1999) 「第二言語習得における日本語ヴォイスの習得順序」『視点・ヴォイスに関する習得研究—学習環境と contextual variability を中心に』, pp.75-94, 科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書.
- 中浜優子・栗原由華 (2006) 「日本語の物語構築：視点を判断する構文の手がかりの再考」『言語文化論集』27-2, pp.97-107.
- 彭広陸 (2008) 「類型論から見た日本語と中国語—視点固定型の言語と視点移動型の言語」『中日理論言語学研究会第12回研究会発表論文集』.
- 堀江薫・プラシヤント・パルデシ (2009) 『言語のタイポロジー：認知類型論のアプローチ』研究社.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) 「日本語語彙テストの開発と信頼性—中国語を母語とする日本語学習者のデータによるテスト評価—」『広島経済大学紀要』34(1), pp.1-18.
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- 森山新 (2007) 「応用認知言語学的日本語教育の試み」『日本認知言語学会論文集』7, pp.1-11.
- 林美琪 (2004) 「上級日本語学習者の談話展開における視点の分析—台湾人日本語学習者を中心に」『人間文化論叢』7, pp.429-440.
- 渡邊亜子 (1996) 『中・上級日本語学習者の談話展開』くろしお出版.
- Tamaoka, K., Sakai, H., Kawahara, J., Miyaoka, Y., Lim, H., & Koizumi, M. (2005) Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions? *Journal of Psycholinguistic Research*, 34, pp. 273-324.

## Effects of viewpoint consistency on reading Japanese text by native Chinese speakers learning Japanese in Taiwan

CHIH-CHEN WEI (Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University)  
KATSUO TAMAOKA (Graduate School of Languages and Cultures, Nagoya University)

### Abstract

Japanese text is written from a consistent viewpoint. Despite this tendency, non-native speakers learning Japanese are likely to produce a text with varying viewpoints. Therefore, using the on-line self-paced reading method, the present study investigated whether consistency in viewpoint within text affects non-native learners of Japanese reading times and comprehension. The viewpoint expressions of two different texts were altered to create four texts comprising of both high and low viewpoint consistencies. 77 Taiwanese learners of Japanese read the texts while having their reading speeds recorded and text comprehension assessed. The results indicated that both the viewpoint consistency at text level and syntactic complexity at sentence level influenced their processing times in the reading of Japanese texts.

Keywords: viewpoint in text, viewpoint consistency, text processing, self-paced reading, syntactic complexity